

(2) 治水の現状と課題

1) ポンニコロ川

ポンニコロ川流域は、合流点から上流 4.3km の区間を昭和 48 年から直轄明渠排水事業で整備され、さらに上流 1km を道営明渠排水事業で整備された河川であるが、現況流下能力が不足している状況にある。

近年においても平成 18 年 10 月の豪雨により浸水面積 45ha の被害を受けており、その他にも台風により平成 4 年 9 月、平成 14 年 8 月、平成 15 年 8 月と洪水被害が頻発している。

こうした現状を踏まえ、早急に河道掘削等の河川改修を実施し、治水安全度の向上が必要である。



<ポンニコロ川 氾濫状況（克服橋下流付近） 平成 18 年 10 月>



<ポンニコロ川 氾濫状況（1号橋下流付近） 平成 18 年 10 月>

表 1-2 ポンニコロ川における主な災害

年次	浸水面積 (ha)			浸水家屋 (棟)			被害原因
	農地	宅地	計	床下	床上	計	
H18. 10. 4-9			45.2				豪雨

出典：水害統計

2) ルクシニコロ川

ルクシニコロ川流域は、合流点から如月橋（国道 333 号）の下流にある 1 号落差工までの区間を昭和 50 年仁頃川災害復旧助成工事によりバック堤の整備が行われている。これより上流 5.4km の区間は国営畑総パイロット事業により整備された河川であるが、現況流下能力が不足している状況にある。

近年においても平成 18 年 10 月の豪雨により浸水面積 18ha、床下浸水 2 戸の被害を受けており、その他にも台風により平成 4 年 9 月にも洪水被害を受けている。

こうした現状を踏まえ、早急に河道掘削等の河川改修を実施し、治水安全度の向上が必要である。



<ルクシニコロ川 氾濫状況（浅尾橋上流） 平成 18 年 10 月>



<ルクシニコロ川 氾濫状況（浅尾橋上流） 平成 18 年 10 月>

表 1-3 ルクシニコロ川における主な災害

年次	浸水面積 (ha)			浸水家屋 (棟)			被害原因
	農地	宅地	計	床下	床上	計	
H18. 10. 4-9			17.7	2		2	豪雨

出典：水害統計

3) 小石川

小石川流域は北見市の市街化区域がその約6割を占めており、密集度の高まりとともに流域内資産は増加している。昭和42年から49年にかけて改修が行われたが、現況断面では流下能力が不足しているため、昭和50年、54年、61年、63年に洪水被害があり、昭和61年8月の豪雨では、朝日町、桜町において浸水面積2.0ha、床下浸水8戸、床上浸水2戸の被害を受けている。特に昭和63年8月の集中豪雨では、大通東1丁目から4丁目及び東陵町、青葉町において浸水面積10.6ha、床下浸水46戸、床上浸水10戸という既往最大の被害を受けている。その後も、平成4年に浸水面積0.7ha、床下浸水3戸、床上浸水1戸の被害が出る等、度々洪水被害が起きている。

こうした現状を踏まえ、早急に河道掘削、堤防等の河川改修を実施し、治水安全度の向上が必要である。



<小石川 氾濫状況（北見市街）平成4年8月>

表1-4 小石川における主な災害

年次	浸水面積 (ha)			浸水家屋 (棟)			被害原因
	農地	宅地	計	床下	床上	計	
S61. 8. 16			2.0	8	2	10	豪雨
S63. 8. 6			10.6	46	10	56	豪雨
H4. 8. 9			0.7	3	1	4	台風10号

出典：水害統計

4) 無加川

無加川流域は、開拓当初から度々洪水被害を受け、その度に復旧工事が行われていた。堤防の新設及び河道の掘削等の抜本的な河川改修は、直轄管理区間である常呂川合流点からとん田川合流点までの延長 7.2 km 区間において、昭和 28 年に着手された。

北海道知事管理区間としては、昭和 37 年 8 月の台風 9 号に伴う豪雨により、道路、橋梁、農地等に甚大な被害を受けたことを契機として、昭和 40 年にとん田川合流点から相内川合流点までの延長 $L = 4.4$ km の河川改修に着手した。

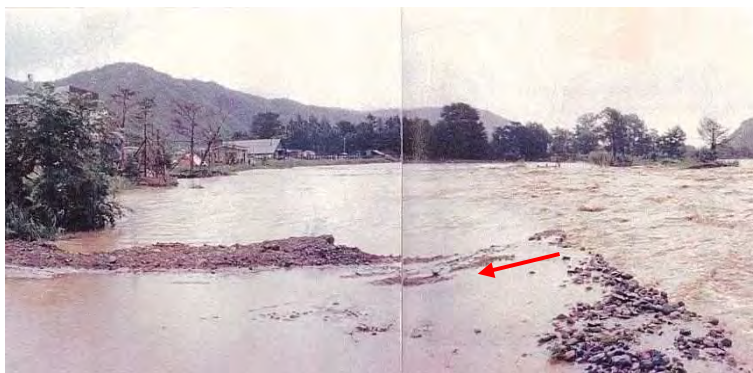
しかしながら、昭和 50 年 8 月の台風 6 号に伴う豪雨では、北見市留辺蘂町において、床下浸水 30 戸、床上浸水 5 戸の被害を受けた。このため、昭和 54 年には、改修区間を北見市留辺蘂町市街地上流の奔無加川合流点（延長 $L = 15.8$ km）まで延伸した。

さらには、北見市留辺蘂町において、昭和 56 年 8 月、昭和 61 年 9 月に農地等の浸水被害を受けたことにより、平成元年には、北見市留辺蘂町滝の湯までの延長 $L = 16.4$ km を延伸した。

現在までの河川整備状況は、とん田川合流点よりパンケビバウシ川合流点付近までの延長 $L = 26.1$ km の区間が完成している。しかし、これより上流の 10.5 km は、計画流量に対し 6 割程度の暫定的な改修を実施しているものの、流下能力が不足しているため、近年においても、平成 4 年 9 月、平成 10 年 9 月、平成 13 年 9 月、平成 28 年 8 月に農地や家屋に浸水被害が発生している。

こうした状況を踏まえ、早急に河道掘削、堤防等の河川改修を実施し、治水安全度の向上が必要である。

また、近年、礫河床の消失に伴う河床低下が進行しており、河川管理施設の機能が喪失するおそれがあることから、予防対策に取り組む必要がある。



<無加川 氾濫状況（八千代橋上流）

昭和 50 年 8 月 >



<無加川 氾濫状況（穂の葉橋上流）

平成 13 年 9 月 >



＜無加川氾濫状況（水郷大橋上流）
平成 28 年 8 月＞



＜無加川 河床低下状況（北進大橋
下流）令和 4 年 8 月＞

表 1-5 無加川における主な災害

年 次	浸水面積 (ha)			浸水家屋 (棟)			被害原因
	農地	宅地	計	床下	床上	計	
S50. 8. 24			不明	30	5	35	台風 6 号
H13. 9. 12	88.0		88.0		1	1	豪雨及び台風 15 号
H28. 8. 20-21	4.4	19.6	24.0	45		45	台風 11 号

出典：水害統計

5) 小町川

小町川は、無加川合流点から上流 4.8km の区間を昭和 48 年から昭和 60 年にかけて河川改修が行われている。改修の着手時点から流域の市街化が進行しており、流域内資産は増加している。

平成 28 年 8 月の豪雨等により、計画高水位を超過する水位上昇が発生していることから、近年の降雨等を踏まえると、現況流下能力が不足しており、市街地としては治水安全度が低い状況にある。

こうした現状を踏まえ、早急に河道掘削、遊水地整備等の河川改修を実施し、治水安全度の向上を図る必要がある。



<小町川 出水状況（北進橋付近） 平成 28 年 8 月>

表 1-6 小町川における主な災害

年 次	浸水面積 (ha)			浸水家屋 (棟)			被害原因
	農地	宅地	計	床下	床上	計	
H28. 8. 21-24	公共土木施設被害						台風 9 号及び豪雨

出典：水害統計

6) パンケビバウシ川

パンケビバウシ川は、無加川合流点から上流 4.1km が 20 条工事区間に指定されており、昭和 52 年国営明渠排水事業（温根湯地区）において、工事が完了している。

平成 28 年 8 月および令和 5 年 8 月の豪雨により溢水氾濫が発生しており、農地に浸水被害が発生していることから、近年の降雨などを踏まえ、現況流下能力が不足しており、治水安全度が低い状態にある。

こうした現状を踏まえ、早急に河道掘削等の河川改修を実施し、治水安全度の向上が必要である。



<パンケビバウシ川 氾濫状況（無名橋下流） 平成 28 年 8 月>



<パンケビバウシ川 氾濫状況（農道橋付近） 令和 5 年 8 月>



＜パンケビバウシ川 氾濫状況（大曲橋上流） 令和 5 年 8 月＞

表 1-7 パンケビバウシ川における主な災害

年 次	浸水面積 (ha)			浸水家屋 (棟)			被害原因
	農地	宅地	計	床下	床上	計	
H28. 8. 20-21	公共土木施設被害						台風 11 号
R5. 8. 9	2. 2		2. 2				豪雨
R5. 8. 21	11. 6		11. 6				豪雨
R5. 8. 27	0. 6		0. 6				豪雨

出典：水害統計
 ※令和 5 年被災は速報値

7) ペンケビバウシ川

ペンケビバウシ川流域は、氾濫により度々洪水被害を受けており、昭和 50 年 8 月の台風 9 号に伴う豪雨により、道路及び農地に浸水被害を受けたことを契機に昭和 51 年から河川改修を実施した。

現在までの河川整備状況は、無加川合流点から温根湯市街地までの延長 L = 1.7 km 区間が完成している。しかし、その上流部は流下能力が不足しているため、近年では平成 10 年 9 月、平成 13 年 9 月、平成 14 年 10 月、令和 5 年 8 月に農地に浸水被害が発生している。

こうした現状を踏まえ、早急に河道掘削等の河川改修を実施し、治水安全度の向上が必要である。



＜ペンケビバウシ川 氾濫状況（北見市留辺薬町平里 寿楽橋下流） 平成 14 年 10 月＞

表 1-8 ペンケビバウシ川における主な災害

年次	浸水面積 (ha)			浸水家屋 (棟)			被害原因
	農地	宅地	計	床下	床上	計	
H14.10.2	1.8		1.8	10		10	台風 21 号
R5.8.9	2.0		2.0				豪雨
R5.8.21	21.2		21.2				豪雨
R5.8.27	0.1		0.1				豪雨

出典：水害統計

※令和 5 年被災は速報値

8) 訓子府川

訓子府川は、常呂川合流点から上流 27.2km の区間を昭和 28 年から平成 4 年にかけて河川改修が行われている。改修の着手時点から流域の市街化が進行しており、流域内資産は増加している。

平成 28 年 8 月の豪雨等により、計画高水位を超過する水位上昇が発生していることから、近年の降雨等を踏まえると、現況流下能力が不足しており、治水安全度が低い状況にある。

こうした現状を踏まえ、早急に河道掘削等の河川改修を実施し、治水安全度の向上を図る必要がある。



< 訓子府川 出水状況（下秋田橋上流） 平成 28 年 8 月 >

表 1-9 訓子府川における主な災害

年次	浸水面積 (ha)			浸水家屋 (棟)			被害原因
	農地	宅地	計	床下	床上	計	
H28.8.20-21	3.4		3.4				台風 11 号

出典：水害統計